

Best Rugby

5. PHILOSOPHY

建造物の best である条件は先ず地面が強固であり基礎工事が完全十分になされていることです。ラグビーで言うならば原理哲学に基づいた理論原則を元にそれを具現化する方策と遂行が求められます。

ラグビーの聖典と言われる“The Guide for Coaches”の第一章は Philosophy(哲学)で始まっています。60 年程前に出された本ですが現代ラグビーの基礎になっていることは間違いありません。W杯日本開催を前にして飛躍を求められている日本ラグビーにとって温故知新の必要性を痛感しているところです。

第二次世界大戦で大きな打撃を受けた英国社会はラグビーどころでなかった環境の中でラグビーを愛した人たちは終戦を喜びラグビー王国の再建に力強い歩みを遂げました。各チームの復活と共に 1960 年代に入ると 1971 年 RFU 創立 100 周年へ向けて総力をあげての営みが続けられました。温故知新ラグビーの歴史を始めラグビーそのものの研究にも力を注ぎました。この本は研究成果の根幹となる基本書として出版されました。以後ルールの変更やプレーヤーの変遷もあり現在絶版になっています。本書の内容は私たちの糧になるものです。

哲学は英国ラグビーの現状の分析と反省から始まっています。

「あきらかに問題は欧州大陸や植民地各国チームとの外観的に外から見える現実が示している通りである。」

外国チームに圧倒されている現実を認めています。そうなった原因について、

「…顧問やセレクターそしてプレーヤーによってゲームについて、プレーの傾向について、関係者の心構えやそれらを保証するとり組み方について細かく広く考えることに十分な時間が殆どなかった。」

十分な反省もなく努力されないままに今日に至っている。その結果として「…やればできる、やらなければならないラグビーをクラブや地域や危機にひんしている国際試合で皆目とってよいくらい立証することがなかった。」

現状の認識不足を努力不足が原因であることを認め、そして選択肢として2つのことをとりあげています。

(1) これまで幾分成り行きでやってきたがそのやり方を続ける。

- (2) ①私たちの flair
- ②私たちの enjoyment 楽しみ
- ③永い過程の広い目的

これら3つを失うことなく世界水準を再び得るための実際の試みをする。」

現状の分析に当たってラグビーの心髄にまで考察を深められました。そのような中でラグビープレーヤーは増加し続けてきました。それは「ラグビープレーヤーがこれまで増加している理由はラグビーを発展させようとする責任感とそれに対する圧力でなされてきました。そして、

- ①我々の気質に基本的に適していない
- ②すべてのレベルに於いて永期にわたって flair と enjoyment に対する我々の能力を殺す傾向にあった。

以上のどちらかの方法を卑屈にもコピーすることははいけないことだと気付かねばなりません。」と反省が続いています。

ここで失ってはならない3つのこと即ちラグビーの心髄について考察しましょう。日本では‘all for one one for all’という共産主義的教育論から出ている言葉をラグビーの心髄と言われていますが上に挙げられている3つの内容とはなじまないものだと考えざるを得ません。試合に勝つためにお互いのかけ言葉として有用であるとしてもそう言い切れないものです(蛇足乍ら one for all だけならば、どの団体競技でも広く当たり前と言われる言葉です)

flair 個人の発想です。一人一人生き生きを明るく発想し判断を生かすことです。

Enjoyment 楽しみです。楽しむためにすることです。

Process 結果も大事ですが過程即ち努力の過程も大事であり楽しいのです。

Broad objectives 信頼と友情を大切に sportsman としてその豊かな人生をおくるという広い目的を持つことが大切です。

ラグビーを一言で表せば‘enjoyment’というのにも共通することです。そして、さらに「日本人らしさ」を加味できればいっそう楽しいものになるはずでしょう。

過去に望ましい結果を達成し得なかった理由はほかの国々同じ有効な標準を模範にしているように次のような要約することができます。

- (1) 一般的にもあまりにも good loser よき敗者であることにつとめる — 勝つための意志の欠如
- (2) 過程を重要視しない — 変化の継続的受け入れ
- (3) 新しいアイデアに対し臆病である — アイデアを実行しなかったし感情的に評価し捨て去った
- (4) あまりにも慣例を重んじるようになった — 劣等感をもつようになった
- (5) training ,teaching ,coaching の間の相違を全くないものしている
- (6) ユニットとチーム全体のまたは techniques を個人の skill に比べて不十分な練習に止まっている
- (7) 合わせ技や変化技を行うのに基本理が伴っていない。」

ここで(1)~(7)までをまとめて考察しましょう。

- (1) good loser であることの大切さは間違いないところです。No-side の精神と共にラグビーの良さの一つとされてきました。勝てないことへの反問が曲折の結果課題となっています。勝利至上主義を肯定している訳ではありません。が結果的に勝者だけが賞賛される風潮が強まったことは残念なことです。
- (2) 結果だけ重んじられ途中の経過や努力が十分に受け入れられ認められない傾向が強まりました。結果の見えない時点での営々たる努力を惜しむようになりました。継続は力なりそして結果はついてくるものです。
- (3) 伝統を守ること・新しいことに挑戦することが矛盾するものではないのです。英国は新しいことに挑戦しなかった結果遅れをとりラグビー発祥の地という誇りだけでは世界はもうついてこなくなったし卑屈な思いだけが残ったのです。
- (4) (3)と(4)は一对のものです。誇り高き英国ラグビー界の劣等感は悲痛な歴史の一頁でした。
- (5) 3種のものにはそれぞれ目的と方法があり3つが統合されて始めて効果がでるものである。3つがあいまいなままに重なりあいまだ欠けたところに残したままに実施されていたことについての反省で相乗効果をねらったものです。
- (6) skill は身体接触を考慮し身のこなしを加味した技術で technique は単なる技術を言うものです。両者の分別が一つの目的です。二つ目の主旨はユニットチームとしての修熟が個人のものに比べて劣っているという指摘で団体として動きが悪くそれをおろそかにした結果効率の悪いものになっていることへの反省です。
- (7) ラグビーにとり組む意識が先ず問題であるというのです。全体的に関心がうすくなっていることへの悲壮感さえ感じられます。

考察は以上にして、先へ進みましょう。そして

「その結果これら全てでの点に蔭がかかりあいまで心構えの持ち方の欠如となっています。一人一人そして全チームが一丸となって理解と努力を基にしたよいボールを獲得し生かすことによる攻撃プレーへ関わることです。」と最後にまとめています。

そして、「先ず最初に我々が改善しなくてはならないことは

- (1) 強調すべき基準を正しい目的と一環させる
- (2) ゲーム全体に対して取り組む」

ラグビーの一部を取り上げたりしないで全体的に系統立てて、考え、方策を練習必要性を述べています。バラバラである現状を認め反省したものです。

続いて、これを達成するには次のことを必要とします。

- (1) training と teaching の方法のとりわけ全ラグビー体系を網羅する coaching の方法についてのいっそう明確な理解
- (2) 顧問やトップクラスのプレーヤーによるものが特にそうですがトップに於ける知識や理解と低い方の層のそれとの間の溝の大きいことの認識

それらは7つのPとして知られています。7人制ラグビーの要求されるのとして同様に知られています。試合の特別仕様の局面場面はプレーヤーにも観衆にも同様に楽しめるものですがそれは偶然に起こることを待つのではなく原因をしかけて起こすものなのです。

「7つのP」それぞれの要求

- (1) 心理学 (Psychology) — すべてのレベルで試合の前、途中そして後の真剣なプレーをする試合への心構えをもつ
- (2) 体格 (Physique) — 各人がフィールド上の異なるポジションに対して要求される体格に対して留意する。

- (3) 選別 (Picking) — しばしば正確な選別がなされない。一つの過りは個人やチームのパフォーマンスをダメにする。
- (4) 位置 (Position) — 全員がそれぞれ他の人の仕事を知らねばなりません。スキヤニングについて強調する際ゲーム中の部分的役目について考えねばなりません。
- (5) 所有 (Possession) — 根本的なことです。有効所有即ち生きたボールの所有展開です。
- (6) パス (Passing) — 基礎的フィードパスに集中されます。心をこめすぎはいけません。可能性に結び付けることです。
- (7) ペース (pace) — 活力があること。身体的に適應する (精神的適應から本能的適應になるように) シーズン初めの週はともかく以後は各個人の責任に於いてなされるべきです。コーチングのための期間の効用はウォーミングアップ (コーチング後の試し期間を除いて非常に重要なのでこれに時間を浪費することはできません)。

考察

現状分析の心理面についてまとめられています。

- (1) Psychology 心理学と訳しましたが心理面全体についてもっと真剣にやらなければならないという反省です。わざわざ at all levels, before, during, after と列挙したのは全体がそうになっていることを認めた上での言葉です。
- (2) 体格に適應するポジションがあり、ポジションに対応する体格の人がそれを楽しむ合理性はチームの総合力を發揮するのに大切なことだと定義づけています。Beaware といっているのはこの自覚がチームの統一性について有用であることを説いているのです。
- (3) 選手選別の困難であることは言うまでもないのですが、特にとりあげているのは心理面の影響の大きさが図り知れないものだからでしょう。
- (4) ポジション別の役目の理解はラグビーの面白さの理解と協力の必要性と楽しさを教えるものです。そこには各人の好みもあり scanning を問題にして筋道を立てて考えることを求めています。注：scanning 後出
- (5) 「生きたボール」とか「ボールを生かす」という表現はそれなりに理解できるものがあります。注：good ball 後出
- (6) feed 養うという意味です。英国ではパスについてボールの持ち方からボールが回転しないようにとか言われてきました。しかし、そこには凡て受ける人にとってどうかの問題で spin (スピンボール) が肯定されてラインアウトの turpedo (トーピドウスロー) も普通のものとなるようになりました。
- (7) pace 歩調、歩き振りです。生き生きと躍動するものでなければなりません。速度が要素ですが、静から動、緩から急への変化もペースの要素です。

次に Remember の章に入りましょう。

「記憶しておきなさい。ラグビーは基本的にはパスゲームです。ボールをパスして相手に働きかけなさい。— キックの練習に集中しすぎてはいけません。」

パスゲームだということをしっかり自覚しましょう。ぶつかり合いだけでなく先ずパスです。キックの重要さと面白さを知ってキック多用の試合が多くなったことへの警告です。

「次に各ポジション毎に基本的に要求されることについて忠告です。各人が責任をもって達成しなければならないことをまとめますと次のようになります。」

技能—個人：基礎

ポジション別 パンフレットⅡ

次の頁表に強調点が示されています。

- (1) 整合されたユニット、個人、チームづくり
- (2) ポジション別の基準用語
- (3) ポジション別の基礎的要求 図5, 6

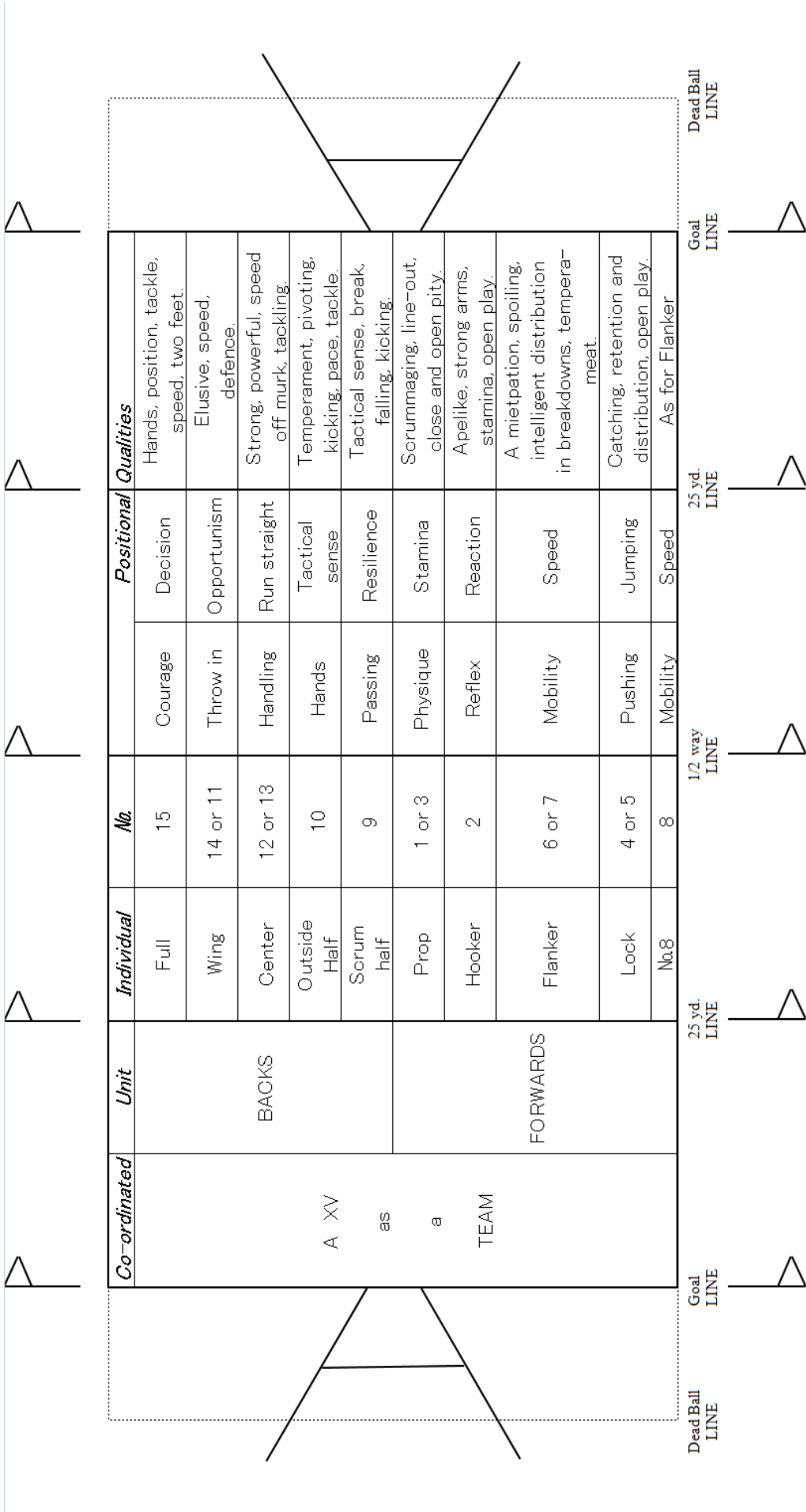


图 5

QUALITY POSSESSION

FROM

SCRUM	LINE-OUT	RUCK	MAUL
1. Foot placing more important than shove.	1. Thrower must throw accurately.	1. Commit opposition over gain line.	1. Support man with ball forcefully.
2. Concentration on snap shove and lock.	2. Every forward has a job to do.	2. First men over ball.	2. Drive hard forward.
3. Watch mechanics (not 3-2-3 with flankers up).	3. Catcher must make ground towards opponents.	3. Bind hard and tight, form wedge and scan.	3. Slip to clear or ball to ground.
4. Flankers pack down at wide angle and stay there.	4. Variety essential.	4. 'Don't be a fairy.'	4. Ball not whistle.

GOOD BALL

THE USE OF QUALITY POSSESSION

AIM: to play in the effective area, i.e., over gain line,

1. Move *FORWARD* - by running or kicking.
2. Attempt to run - but not at expense of losing or being ineffective.
3. Opposition most vulnerable when *fatigued or out of position*.
4. Carefully select attacking positions - then 100 *per cent exploitation*.
5. Therefore - *play must be CONTINUOUS*.

Think of *NEXT PHASE OF ATTACK* Scan
Switch

BALANCED VARIETY

extend opposition physically and mentally.

図 6

考察；

図をよくご覧ください。正に画期的なものです。FW が 341 になっています。名称も新しいものがあります。323 が一般で第 3 列はバックローと呼んでいました。バックローセンターを NO8 と呼び仕事を大きく引き上げました。フランカーは呼び名も仕事も新しい考えによるものです。今日これらは全く常識的なものになっていますが本書のここから始まったものです。本書が聖典と言われる理由でもあるのです。

GLOSSARY OF TERMS / DEFINITIONS

用語と定義ままとめられています。

「コーチングを進める場合特別の使い方をする用語と定義

PRACTICE (練習) 次の一つまたはそれ以上のものを含む

- (1) TRAINING (訓練) 身体づくりに関するものだけである。
- (2) TEACHING (教育) 個人とユニットの技能を教えることを言う。新しい技術の紹介も。
- (3) COACHING (コーチング) ユニットとチームの技能技術の改善進歩をはかる。

考察

上の 3 つの用語の内容、目的の明確化の必要性を痛感し鋭意話しあわれた結果です。

「QUALITY POSSESSION 良質所有は good 良いボールの所有のことです。よいボールとはスクラム、ラインアウト、ラック、モールと他の不定形プレーで有効に生かし得るボールの正しいタイミングで積極的建設的に目的達成するためのボールを獲得所有すること。」

先の表が細かく示しています。good ball の目的は to play in the effective area です。

「GAIN LINE 自陣ゴールラインから相手のゴールラインの方向へ進む場合の地域獲得境界線」この言葉は新しく導入され広く使われるようになりました。

「TACKLE LINE 位置に関わってゲインラインと共に中心軸になるもので両ボックスの中間ライン」考えられるタックルラインより前でタックルするまたは反対にタックスされることが作戦のポイントの一つになります。

「EFFECTIVE AREA 得点するために攻撃を展開しようとする時ゲインラインを越えたプレーのフィールド上の領域」 Good ball の目的です。

「SCANNING 予期と正しい行動を生むためのゲームの状況についての視覚感知」 scan 精査するという意味の言葉は走査さるという電資用語で広く使われています。細かく裁断して正確に判断することがそのままゲームの状況分析にあてはめられているのです。

「SWITHCHING プレー展開の方向転換をするべきと感知し理論通りにボールが死んでしまうことや展開に不安定な状況を回避することに使われる用語で相手を混乱させ防御の欠陥を越えさせることにより再び地域をゲインしゴールラインに達する機会を最大限にするものです。」

ボックスのシザースは以前から行われていたプレーですが単なる交叉プレーではなくユニットとしてまたチーム全体として攻撃方向の転換をいうものです。これが実現したとものが所謂ステレオタイプ展開というものです。

「CONTINUITY 攻撃が壊れてしまう前の中途半端の成功をゲームの目的を最終的に達成するためにそれまでのプレーの流れを最大のものにするもの。チームの多くのメンバーの多くの能力をつかうことでそれをできる有効な方法で可能にするもの。」

one play で達成できれば簡単ですが相手も一生懸命に防ぎます。それを達成するにはプレーの継続が第一です。目的達成へのチーム一丸となって継続することです。

「ATTITUDE OF MIND 純粋に身体自体からの本能のように競技に対する全体的な心の構え方」何気なくやっていたラグビーに対してもつと積極的に更には真剣に取り組むことによって面白さが分かり上達するものですであるという反省が元にあります。

以後は以前から使われている用語ですが、此期に至って特別の意味を加え、これまで以上の成果を目指そうとするものです。

「PASS;BASIC A から B にできるだけすばやく効果的なやり方で両手でボールを動かし積極的目的を達する方法全般についていう用語です。

feed(1)(2) すべてにつかう用語

(1) 一定の動き

(2) 方向の変化 積極的目的達成の可能性

スクラムハーフに関してだけのパス。例えば、ストレート、スイング、リバース、ピボット、ダイブ等があります。」

feed は供給する。feed on / up では美食という意味が加わります。必要物であるよいボールを養い供給するパスということです。

「SCRUM セットスクラムとして通常用いられているものを言う。」

loose-scrum と tight-scrum があつたのを整理してスクラムといえばセットスクラムのことになったわけです。

「RUCK loose-scrum として知られているものを言います。(loose という語から発するものは我々が是非とも loose ゆるいだらりとしたといった感じを避けることを望んでいるプレーの局面であることを何となく言っているのです。) 加えるに ruck という語はより活気のある身体的活動を暗示しています。」

「MAUL 両チームから複数のプレーヤーが手に持たれたボールを障壁を作ってかくし合うようなプレーの状態を言う。ボールを持って集団を脱出して前進しようと働きかける。

「WEDGE 全く合法的でお互い組み合って前方へ進む隊形。通常ラインアウトの後で生きたボールの所有を達成することを確実にする。」

「FORWARDS/BACKS 15 人のプレーヤーを 2 つにするユニット。コーチングよりむしろ教えるために分けて行われる。

用語はすべて現在に全く日常的で内容が問題にされていないものばかりですが、当時の英国では特筆すべき必要性があつたということです。定義や用語は哲学の産物です。単にラグビーで使われる英語ではありません。言葉の内容を思想を理解しプレーに生かさなければなりません。

原文については次頁をご参照願います。

RUGBY FOOTBALL UNION

Coaching Pamphlets

PAMPHLET I

ATTITUDE and FUNDAMENTALS

A. PHILOSOPHY

The present situation is interpreted as one of intense competition from abroad

- apparently the only outward and visible signs that matter are the actual results against Continental and Commonwealth teams.
- thus little time is afforded by administrators, selectors, referees and players alike to thinking both broadly and in detail about the game, the trends in play, the attitude of mind of all concerned, the approach that ensues.
- with the result that all too rarely does one witness Rugby Football as one knows it can and should be played, even when Club, County, International competitive reputations are at stake.

Our choice appears to be:

- (i) To continue with our somewhat happy-go-lucky attitude.
- (ii) To make a realistic attempt to regain world standards without losing:
 - (a) Our flair
 - (b) Our enjoyment
 - (c) Our broad objectives in the process.

Because of ever-increasing numbers playing Rugby Football, there is equally an ever-growing responsibility and pressure upon us, and we must beware lest we slavishly copy methods which either:

- (i) Are really fundamentally unsuitable to our temperament
- or (ii) Will tend to kill our ability for flair and enjoyment in the long term at all levels.

In the past the reasons for not achieving such desired results, as well as emulating the same efficiency standards as other countries, can, perhaps, be summarised as follows:

- (i) Generally we are too good losers—lack of “will to win”.
- (ii) We do not appreciate progress—“continual acceptance of change”.
- (iii) We are shy of new ideas—“not done”: temporarily appreciated and then lost.
- (iv) We therefore become too conventional—leading to an inferiority complex.
- (v) Too little differentiation made between: training; teaching; coaching.
- (vi) Unit and team skills or techniques practised insufficiently as compared with individual skills.
- (vii) No basic dogma on which we can build sophistication and variety.
- (viii) Lack of intensity of approach.

and, overshadowing all these points, an overall lack of “attitude of mind”, gearing everyone involved to attacking play by quality possession based on co-ordinated team understanding/effort.

In the first instance, therefore, we must improve:

1. The standard of enthusiasm linked with the correct objectives.
2. The approach to the game as a whole.

This demands

- (a) A much clearer understanding of the methods of training, teaching and, above all, coaching throughout the whole Rugby hierarchy.

- (b) A greater appreciation, especially by administrators and top class players, of the gulf between the knowledge and understanding of those at the top and those lower down the Rugby strata.

B. FUNDAMENTALS

Certain fundamentals are pre-requisites for attacking football: these must be more widely and fully appreciated if we are to raise the standards of coaching, and thus achieve the aims set out in our philosophy above.

They are known as the seven P's, and can be identified with the requirements of seven-a-side Rugby Football—a version of the game usually enjoyed by players and spectators alike, in which you do not wait for things to happen, but you cause them to happen.

The Seven P's

The requirements for each are:

1. **Psychology** —the mental attitude to the game at all levels before, during and after actual match play.
2. **Physique** —everyone must be aware of the physique required for different positions on the field.
3. **Picking** —correct selection often not made—one mistake can make or mar an individual and thus a team's performance.
4. **Position** —all must know each other's job in the team thoroughly—think as part of a team with emphasis on scanning.
5. **Possession** —essential, but emphasis on "quality possession" i.e., "good ball".
6. **Passing** —concentrate on "basic", "feed" passes. Do not over-elaborate, but ensure switching possibility.

7. Pace —vital, but physical fitness (as distinct from mental fitness) should be each individual's responsibility after first few weeks of season—time available for coaching too precious to be wasted on this except in warming-up or post-coaching sessions.

Remember—Rugby Football is essentially a passing game—make the ball do the work!

—do not over-concentrate on kicking practice.

—in selecting a team from scratch or with some experience, similar basic principles apply in all circumstances—

- (i) over-specialisation should not be allowed at too early an age.
- (ii) policy should be gradually to teach all members of a team that we must no longer emphasise so much the insularity of units or individuals within a Rugby team.

We tend by our very actions and methods to breed a mental attitude of over-specialisation and thus break-down into sections in our coaching and selection.

Suggestions for basic requirements for each position, assuming everybody is reasonably accomplished at:

Skills — Individual: Basic } Pamphlet II.
 Positional }

are shown on the opposite page in a diagram emphasising:

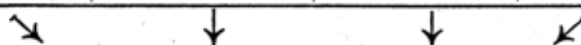
- (a) Co-ordinated, Unit, Individual: make-up of TEAM.
- (b) Standard terms for positions on field.
- (c) Basic qualities for positions on field.

Committed	Unit	Individual	No.	Courage	Position	Qualities	
A XV as a TEAM	BACKS	Full	15	Decision	Hands, position, tackle, speed, two feet.		
		Wing	14 or 11	Throw in Opportunities	Fluency, speed, defence.		
		Centre	12 or 13	Handling Run straight	Strong, powerful, speed off mark, tackling.		
		Outside Half	10	Hands Tactical sense	Temperament, pivoting, kicking, pace, tackle.		
		Scrum half	9	Passing Resilience	Tactical sense, break, falling, kicking.		
	FORWARDS	Prop	1 or 3	Physique	Stamina	Scrummaging, line-out, close and open play.	
		Hooker	2	Reflex	Reaction	Agility, strong arms, stamina, open play.	
		Flanker	6 or 7	Mobility	Speed	Anticipation, spotting, intelligent distribution in breakdowns, temperament.	
		Lock	4 or 5	Pushing	Jumping	Catching, retention and distribution, open play.	
		No. 8	8	Mobility	Speed	As for Flanker	

QUALITY POSSESSION

FROM

SCRUM	LINE-OUT	RUCK	MAUL
1. Foot placing more important than shove.	1. Thrower must throw accurately.	1. Commit opposition over gain line.	1. Support man with ball forcefully.
2. Concentration on snap shove and lock.	2. Every forward has a job to do.	2. First men over ball.	2. Drive hard forward.
3. Watch mechanics (not 3-2-3 with flankers up).	3. Catcher must make ground towards opponents.	3. Bind hard and tight, form wedge and scan.	3. Slip to clear or ball to ground.
4. Flankers pack down at wide angle and stay there.	4. Variety essential.	4. 'Don't be a fairy.'	4. Ball not whistle.



GOOD BALL

THE USE OF QUALITY POSSESSION

AIM: to play in the effective area, i.e., over gain line.

1. Move *FORWARD*—by running or kicking.
2. Attempt to run—but not at expense of losing or being ineffective.
3. Opposition most vulnerable when *fatigued or out of position*.
4. Carefully select attacking positions—then 100 per cent *exploitation*.
5. Therefore—*play must be CONTINUOUS*.

Think of *NEXT PHASE OF ATTACK* Scan
Switch

BALANCED VARIETY

extend opposition physically and mentally.

RUGBY FOOTBALL UNION COACHING PAMPHLETS

GLOSSARY OF TERMS/DEFINITIONS

for specific use in the coaching field,
but also to be used whenever practicable.

PRACTICE. A session given over to one or more of the following:

- (a) **TRAINING.** A term only to be associated with physical fitness.
- (b) **TEACHING.** A term to describe instruction on skills—individual and unit—and thereby the introduction of new techniques.
- (c) **COACHING.** A term for the improvement and development of skills/techniques—unit and team.

QUALITY POSSESSION is "good" ball. Possession by correctly timed feeding of the ball from scrum, line-out, ruck and maul, and elsewhere in broken play, for something positive or constructive to be achieved.

GAIN LINE. The line beyond which gain is made toward the goal-line from the original source of feed.

TACKLE LINE. The mid-line between the backs which pivots in relation to the gain line according to position on field.

EFFECTIVE AREA. A part of the field of play beyond the gain line into which the attack should develop in order to score.

SCANNING. Visual awareness of game situation to cultivate anticipation and corrective action.

SWITCHING (Change of Direction). A term used as a logical follow-on from scanning to change direction of play thus avoiding dead, negative play situation, and to cause confusion and in turn lack of defensive cover—again to maximise opportunities toward the gain or goal-lines.

CONTINUITY. An unbroken succession of attacks so maximising the ever-changing current play situation for ultimate success in achieving object of the game—crossing the goal-line in as efficient a manner as possible compatible with using the abilities of the members of the team.

ATTITUDE OF MIND. The overall mental approach to the game as distinct from the purely physical.

PASS: Basic. A term to cover the method of moving the ball with two hands from A to B in as quick and effective a manner as possible—to positive purpose.

Feed. A term to cover all (i) setting in motion
(ii) change of direction } POSSIBILITIES to positive purpose.

There are special passes for one player only—the scrum half, i.e., straight, swinging, reverse, pivot, dive, etc.

SCRUM. Refers always to what is often known as the "set-scrum".

RUCK. Refers to what is often known as a "loose-scrum" (eradication of "loose" appears to be sensible, as in this phase of play we wish to avoid anything loose at all costs: in addition, the word "ruck" suggests a more dynamic, physical action).

BALL ON GROUND—WALK OVER.

MAUL. Refers to the play situation when players from both sides gather around and frequently mask the ball off the ground.
BALL IN HAND/ARMS—WORK OUT.

WEDGE. A perfectly legal, interlocking, forward formation pattern, usually after a line-out, to ensure achievement of quality possession.

FORWARDS } The two units of a Fifteen. Further subdivision
BACKS } for "teaching" rather than "coaching".